

～街から涼しさを つくり出すために～

屋上緑化の環境調整機能

I 室内環境

- 1) 焼けこみ防止効果
- 2) 断熱効果
- 3) 遮音効果
- 4) 防振効果

II 屋外環境

- 1) 照り返し防止効果
- 2) クールスポット形成効果
- 3) 吸音効果
- 4) アメニティの向上

III 都市環境

- 1) ヒートアイランド現象緩和効果
- 2) 都市型洪水の抑制
- 3) 過乾燥化の抑制
- 4) 温暖化ガス(CO₂)吸収効果
- 5) 都市景観

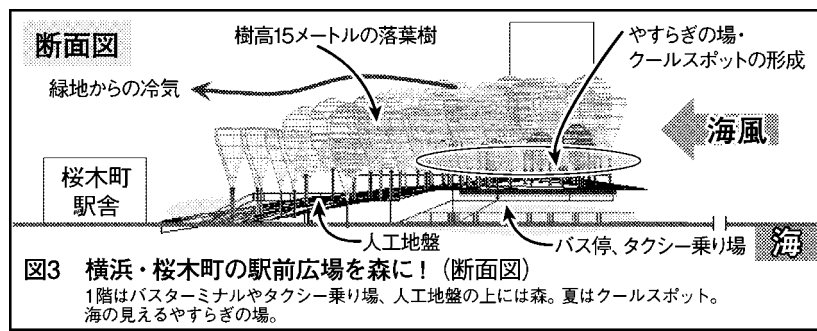


図4 テーマ「桜木町の駅前広場に森を！」(模型写真)

都市・建築緑化 とその基本的 考え方

わが国の街づくりでは不可欠とされる都市・建築緑化(グリーンアーキテクチャ)を取り上げ、そのヒートアイランド緩和効果や生活空間の快適な環境形成効果を考えてみたい。夏のヒートアイランド現象を緩和するには、熱容量の大きな鉄筋コンクリート造建物や舗装道路に直接日

射を当てないように緑で包む。緑と人工物の融合が重要だ。その一手法に屋上緑化、壁面緑化、ベランダ緑化、並木、植栽スクリーンなどの都市・建築緑化が挙げられる。

緑化の議論の 前に 街の構造その ものを見直す

近年、都市建築緑化といえは屋上緑化と壁面緑化ばかりが挙げられるが、都市緑化の手法はいくらかあるが、総合的にみて緑化に勝るものはない。都市建築緑化といえは屋上緑化と壁面緑化ばかりが挙げられるが、都市緑化の手法はいくらかあるが、総合的にみて緑化に勝るものはない。都市建築緑化といえは屋上緑化と壁面緑化ばかりが挙げられるが、都市緑化の手法はいくらかあるが、総合的にみて緑化に勝るものはない。

地球環境時代に求められる環境負荷の小さい快適な街づくりとはどのようなものか。熱環境の視点では、脱ヒートアイランド都市を目指した、熱中症とも無縁な街づくりというところになる。今日、都市には熱があふれているが、ヒートアイランド現象を引き起こす主要因は、近代の街づくり

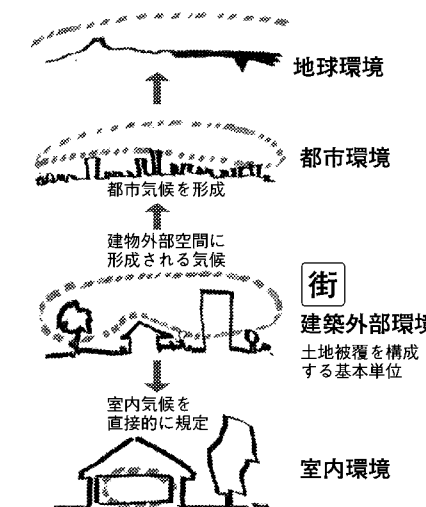


図1 街づくりと建築室内環境、都市環境、地球環境との関係

射を当てないように緑で包む。緑と人工物の融合が重要だ。その一手法に屋上緑化、壁面緑化、ベランダ緑化、並木、植栽スクリーンなどの都市・建築緑化が挙げられる。

これは街づくりにも当てはまる。ここでは、わが国の気候風土にあった環境共生的な街づくりの規範と具体的な街のあり方について考えてみよう。

地域・建築緑化 - 街の構造そのものを見直すことから始めよう

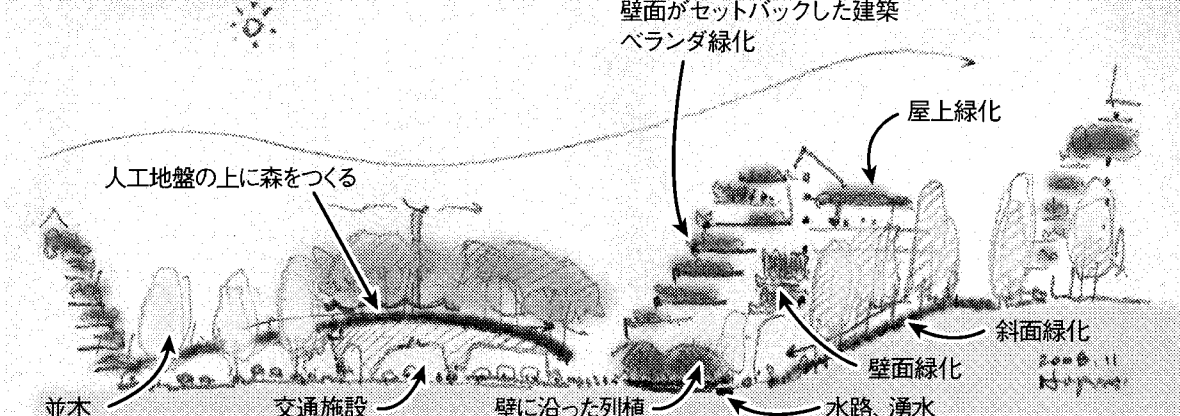


図2 都市・建築緑化 - 街の構造そのものを見直すことから始めよう

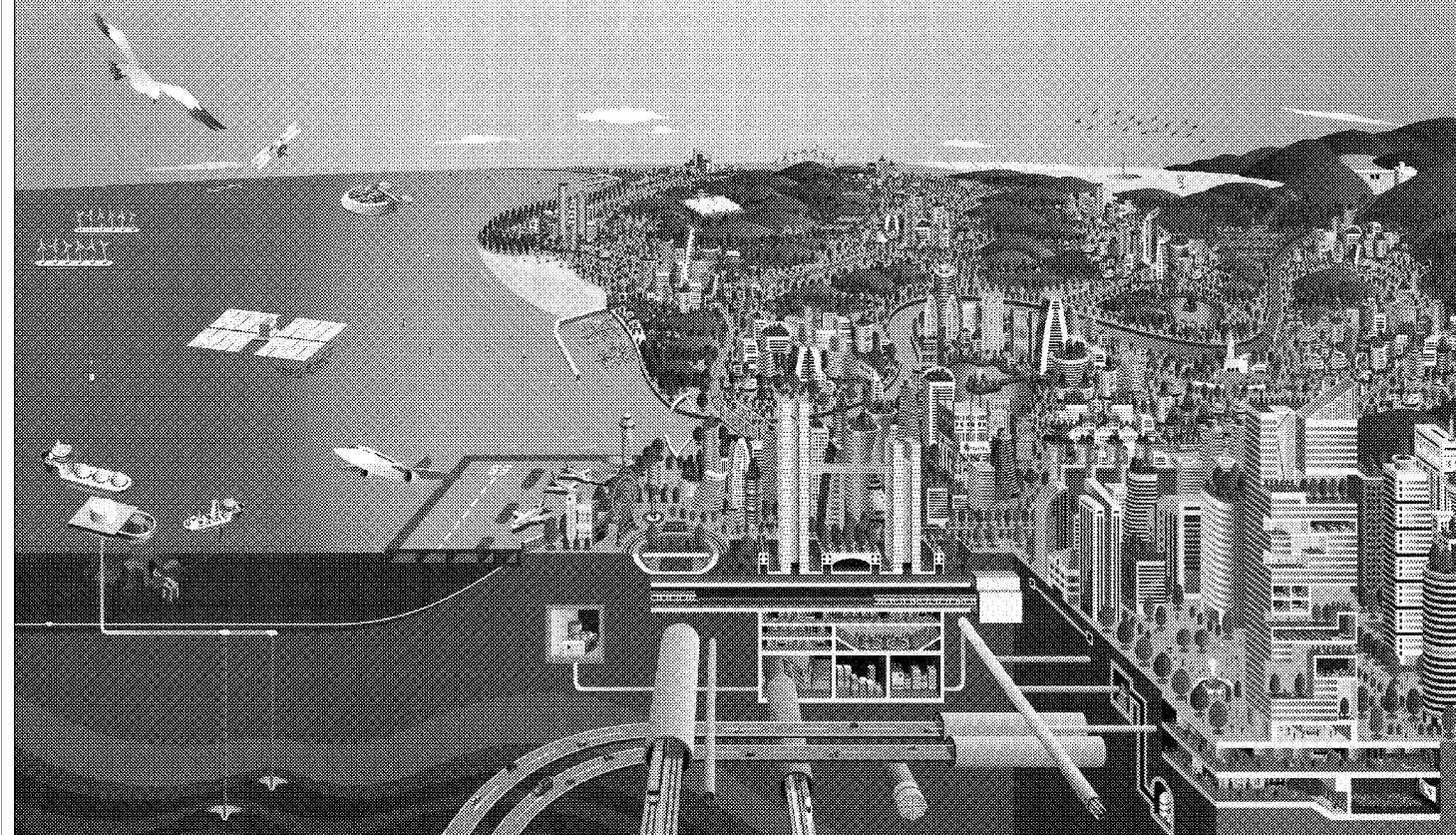
現在の都市、街、 建築を見直す

脱ヒートアイ ランド都市のため の街づくり？ その規範

今日、地球環境の縮図とも言える都市は、周辺環境に優しい、環境共生都市でなければならず、快適な生活の場にならなければならない。これを熱環境の視点から言えば、亜熱帯地域に近

わが国の夏は、脱ヒートアイランドで、熱中症と無縁な熱的に快適な生活空間の街ということになる。わが国の夏は、西ヨーロッパの夏のように木陰に入っても涼しさを得られず、蒸し暑い。街にはあまりに熱があふれている。その原因は街の構造にある。吉田兼好が徒然草で「家のつくりは夏を旨とすべし」と述べているが、これは街づくりにも当てはまる。ここでは、わが国の気候風土にあった環境共生的な街づくりの規範と具体的な街のあり方について考えてみよう。

For a Lively World



わたしたちは「人がいきいきとする環境を創造する」というグループ理念のもと、自然との調和の中で、安全・安心で魅力ある空間と豊かな価値を生み出してきました。For a Lively World...この思いとともに、これまで育んできた技術を、さらに高め次の世代へ。わたしたちは、夢と希望に溢れた地球社会づくりに取り組んでいます。

地球がいきいき、人もいきいき。大成建設がめざす未来です。

大成建設株式会社



子どもたちに誇れるしごとを。

SHIMIZU CORPORATION
清水建設